

平成 28 年度 第一回生活支援・介護予防サービス推進協議会

平成 28 年 8 月 23 日 (火) 午後 2 時

新湊消防署 3 階大ホール

(意見等)

(1) 介護予防・日常生活支援総合事業について

(2) 現行型サービス・緩和型サービスA基準(素案)について

○デイサービスのご利用者がよく言われるのは、ここに来るのが生きがいだと言われる。

○これから(サービスを)受ける方よりも、今利用している方がスムーズに移行できるか、現場としては、一番、懸念している。

○サービスを使って、この後の生活をどのように展開していきたいのかを確認しながら、ケアプランを作っていくことが大事なのではないか。

○誰が利用者や家族に説明して、同意を得て、緩和型を利用してもらうのかが大きな課題になってくると思う。それに対して、地域包括なり事業者が、どのような役割分担でやっていくのかを、これから3月にかけて、しっかり協議していただければと思う。

(3) 生活支援体制整備事業について

○中身としてやっていることは、まちのなかでは同じようなことをやっている。各一人暮らしの声掛けや、新聞がちゃんと、きちんにとられているとか、そういうことは、住民は、みんなきちんと気を付けてやっている。

○皆、高齢で65歳まで働いておられるので、人材不足は否めない。だんだん、そういう人材の引き出しが無くなってきたなという面が、ちょっと困っている。

○老人クラブの方も、同じで、老人クラブの役員の成り手がいない。

○シルバーとしては、これから、市と細かいところを協議してくことになると思うが、それが決まった上で、シルバーの中で、事業や就業、開拓、会員拡大を目的とした事業部会もあり、話題もでてきているので、色々情報などを聞かせていただければと思う。

○色々な考え方の人がおられると思うが、それを発掘して、育てるというのは大変なことだと思う。

○講演会をしても、おそらく出てくる人というのは、民生委員等、普段やっている人がでてくるだけで、そうでない方をいかに集めるのかというのは本当に大変。

○講演会のやり方というのは、一般市民の方がいかに参加するかという、それが一番難しいが、それが上手いけば、その後の研修会などの部分で、上手いくかもしれない。

○事業の方で、民間に何かできることがあるものなのか。もし、企業に、何か告知

することがあれば、お手伝いは出来ると思う。

○縦割りと横割りの関係の中で、今回、いわゆる共助、互助、そういったいくつかのお互いが助け合っていく仕組みが、これからは地域の中で、誰かが仕事をもって、役割をあてられた人が仕事をするという価値観では無く、地域住民の方達の支え合いの仕組みをどう作っていくかというのが、ここの大きなテーマであり、国が提案しているのは多分そこら辺になると思っている。

○これから5年後、10年後を見据えて、地域の方々に色々支援してもらっていこうとすると、社協や、民生委員や老人クラブ等、皆でその場で説明を聞いて、話し合うのがいいのではないかと、これに尽きると思う。その中に、色々なボランティアであったり、地域包括支援センターであったり、商工会であったり、色々な人が関わって、その地域、地域でどういうふうに行っているかということをしつづつ積み重ねていくことが、一番大事だと思う。